

Hæc diesの逐語解説書 (聖路加聖歌隊用)

Graduale : Hæc dies(昇階唱: この日こそ)

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊 川津泰人 平成18年3月

Haec dies	この日こそ				
	Haec(エカ)	dies,	quam	fecit	Dominus:
	この	日	関係代名詞	作った	神
	exsultemus, エクスルテームス	et	laetemur(レテムール)	in	ea.
	Byrdの曲のみ 歓喜をあげようexsuto一複	そして	喜ぶlaetor	に	それit
	Alleluia,	alleluia			
	ハレルヤ(下記注ご参照)	ハレルヤ			
標準的意識	この日こそ、主が創られた日です:				
Byrdの曲のみ	私達は喜び、この日を楽しみましょう		exsultemus, エクスルテームス 英語ではLet us rejoice = exsultemus		
	アレルヤ。				

Jacques Arcadelt (1504年もしくは1505年 - 1568年 10月14日 パリ) ジャック・アルカデルト(Jacques Arcadeltまたはヤコブ・アルカデルト Jacob Arcadelt)	
Jacques Arcadelt	<p>盛期ルネサンスのフランドル楽派の作曲家。姓についてはアルカデArcadet、アルカダンArcadentとも。もっぱらマドリガーレやシャンソンのような世俗音楽の作者であった。出身はリエージュの見込みが高いが、近年ではフランス人説も濃厚になってきた。</p> <p>生い立ちについてはほとんど分かっていないが、1539年にはジュリア礼拝堂の一員となっていたので、その頃までにはローマに在住していたらしい。その後まもなくスティーナ礼拝堂に加わり、少年合唱の指揮者 "magister puerorum" に任用され、後で楽長に抜擢された。同年に、全6巻の4声のためのマドリガーレのうち の4巻を出版する。おそらく1553年に前後してフランスに出国、同地で余生を過ごした。この頃からおびただしい数のシャンソンが作曲されるようになる。1557年には、雇用人であるロレーヌ枢機卿シャルルド・ギーズ Charles de Guiseに1巻のミサ曲を献呈した(晩年にアルカデルトはギーズの楽長 maître de chapelle を勤めた)。</p>
William Byrd (1542リンカン - 1623. 7スインドンマッシー) Byrde, Bird, Byredとも書かれる	
William Byrd	<p>英国、エリザベス朝最大のイギリスの作曲家でオルガン奏者、1563-72にかけてリンカン大聖堂のオルガン奏者。宗教音楽としてのオルガン曲、歌曲などを創作開始、1570年、王室礼拝堂聖歌隊に参加、Tallisとともにオルガン奏者を務める。1575年Tallisと共にエリザベス一世より楽譜印刷、出版の特許を受け、本格的創作、出版活動に入る</p> <p>バードの創作は、カトリック、英国国教会派の宗教音楽、マドリガル、室内楽、オルガン音楽など当時の全ての作曲の分野で卓越した技巧を示した。当時のライバルはPurcell一人と言われる。</p>
典礼(liturgia, liturgy)	<p>教会がささげる神への公的な共同の礼拝。神に呼び集められた者の集いである教会が行う公的な礼拝であり、個人的な祈りや信心とは区別される。マタ 18:20-2人または3人が私の名によって集まるところには、私もその中に居る と約束したキリストと教会がともに行う礼拝</p>
ミサとは	<p>もともとは解散という意味—Itē, missa est—ここで会は終わるので解散</p> <p>キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現するキリスト教会の最も重要な典礼、その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分かち与えることからなる。楽曲としては、Offertorium(奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio(聖体拝領唱)が上記の項にそれぞれ対応する</p>
Alleluia ハレルヤ	<p>英語ではHallelujah、元来ヘブライ語で(ヤハバヤハヴェ神)を褒め称えよという意味。典礼において得に歌われるのは復活節中で、ミサのアレルヤ唱は、福音で語られるキリストを迎える序曲として全会衆が立てて歌う</p>
ドイツ式ラテン語読み(主要なもの)	<p>(c,e,i)の前でツイ、pacemパーツェム)、sc(a,o,u)の前でkse,lの前でstsu—suscipe、ススツイベ)、gn/gl(そのまま発音agnusアグヌス)、gu+母音=qu+母音 (gv—sanguineサンクヴェーネ、kv—quiクヴィ)、hはよむ、e(ドイツ式に発音meserere—ミゼレイレ、laudamus テーティー)など他にもあるので詳しくは三ヶ尻著ミサ曲ラテン語教会音楽ハンドブック(シヨバン)ご参照</p>